

大阪市立自然史博物館

見学ガイド

はじめに

大阪市立自然史博物館では、人間をとりまく自然について、その成り立ちやしくみ、歴史を展示しています。そして人間が自然とどのように付き合っていけばいいのか、みなさんといっしょに考えることを目的としています。

自然史博物館は2つの建物に分かれています。1つ目の建物は博物館本館です。4つの常設展示室「身近な自然」「地球と生命の歴史」「生命の進化」「生き物のくらし」があります。2つ目の建物は花と緑と自然の情報センターです。「大阪の自然

誌」展示室があります。それぞれの建物に
さわれる展示や音の出る展示があります。

また、開催時期が限定されている特別
展・テーマ展示・ミニ展示も行っていま
す。自然観察会や講演会も年 100 回以上行
っています。

自然史博物館は長居植物園の中にありま
す。植物園では季節の植物を楽しむことが
できます。花と緑と自然の情報センターに
は、ミュージアムショップもあります。

博物館をもっと利用したい人には「大阪
市立自然史博物館友の会」があります。博
物館公式ウェブサイトや、ツイッターなど
の SNS もあります。

このガイドが、来館のきっかけ、さらには自然について興味をもつきっかけとなれば幸いです。

なお、この見学ガイドのテキストデータと大きな文字の pdf ファイルは、自然史博物館ウェブサイトからもダウンロードできます。展示の楽しみ方や解説が載っている博物館電子ブックにも、公式ウェブサイトや展示室内に設置された QR コードからアクセスできます。

館内では展示品の写真撮影をしていただけます。タブレットやスマートフォンの拡大機能も、お使いいただけます。

— もくじ —

I 展示の紹介・・・・・・・・・・6

(1) ポーチ

(2) 博物館本館 ナウマンホール

(3) 第1展示室「身近な自然」

(4) 第2展示室「地球と生命の歴史」

(5) 2階ギャラリー・

第4展示室「自然のめぐみ」

(6) 第3展示室「生命の進化」

(7) 第5展示室「生き物のくらし」

(8) 花と緑と自然の情報センター

「大阪の自然誌」展示室

2 さわれる展示と

音の出る展示の紹介・・・・・・・・・・16

(1) ポーチのさわれる展示

(2) 博物館本館のさわれる展示

(3) 花と緑と自然の情報センター「大阪
の自然誌」展示室のさわれる展示・
音の出る展示

3 ご利用案内・・・・・・・・・・35

Ⅰ 展示の紹介

(Ⅰ) ポーチ

さわれる展示：玄武岩、枕状溶岩

博物館入り口の前のポーチの天井からは、大きなクジラの骨格標本が3つ吊り下げられ、みなさんをお出迎えします。クジラの骨格標本には名前がそれぞれ付けられています。ナガスクジラのナガスケ、マッコウクジラのマッコ、ザトウクジラのザットンです。一番大きいナガスケは、全長19メートルあります。その下を歩いて大きさを感じてみましょう。本館第2展示室には、ナガスクジラの下あごの化石がありますので、さわってみてください。

また、博物館本館入り口に向かって左側には、玄武岩・枕状溶岩とその説明の点字パネルがあります。

（２）博物館本館 ナウマンホール

さわれる展示：サヌカイト

ナウマンホールでは、実物大のナウマンゾウとヤベオオツノジカの模型が待ち構えています。どちらも2万年前まで日本列島で暮らしていました。大阪でも、ナウマンゾウの歯の化石や足跡の化石が見つかっています。その頃の人、石を割って作った石器で狩りや料理をしていました。石器の材料の岩石であるサヌカイトに、さわって

みてください。

ナウマンホールには、ミュージアムサービスセンターがあります。ここには開館時間の間、学芸員がいつもいます。展示や自然について、学芸員に質問することができます。

（３）第Ⅰ展示室「身近な自然」

大阪周辺の身近な自然を紹介しています。家の中や街の中、公園、自然が残る郊外の田んぼや雑木林、お寺や神社に残るうっそうとした照葉樹林、河口の干潟、大阪湾の海の中など、様々な環境で暮らす生き物たちが展示されています。また、絶滅危惧種

や外来生物など、人間の活動の影響を大きく受けた現状も紹介します。

(4) 第2展示室「地球と生命の歴史」

さわれる展示：大阪平野のおいたち、ナガスクジラの下あごの化石、ナウマンゾウの下あごの化石、二上山の岩石、石炭、アンモナイト、恐竜の足跡化石、恐竜の脚の骨の化石

地球の歴史 46 億年、生命の歴史 38 億年を、現在から過去へさかのぼりながら紹介します。大阪平野が海だった時代、ナウマンゾウがいた時代、二上山が噴火していた時代、恐竜やアンモナイトの時代、三葉虫

の時代とたどって行きましょう。壁際の展示ケースには、それぞれの時代についての説明や化石などの標本が展示されています。展示室の中央の台の上には、それぞれの時代に暮らしていたゾウやシカの仲間や恐竜たちなど、化石で見つかる大きな生き物たちの骨格模型が並んでいます。化石の実物や岩石を中心としたさわれる展示もあります。

(5) 2階ギャラリー

さわれる展示：黒水晶（第2展示室出口と第3展示室入り口の間）、クスノキの年輪（第5展示室を出たところ）

隕石、キノコ、和泉山脈の化石、様々な鉱物などが展示されています。いつも食べている野菜や果物、穀物が、世界のどこからやってきた植物なのかがわかる第4展示室「自然のめぐみ」も、ギャラリーにあります。

（6）第3展示室「生命の進化」

さわれる展示：琵琶湖の魚（ニゴロブナ、ゲンゴロウブナ）、大きな貝（オオジャコ、アラフラオオニシ、トウカムリガイ、ホラガイ）

生命が海に誕生して以来、生物は 38 億年もの長い時間を掛けて進化してきました。

その結果現在の地球上には、900 万種ともいわれる生物が、深海から高山、赤道から北極や南極、乾燥した土地から湿った土地まで、地球上のありとあらゆる環境に適応して暮らしています。水に浮いたり風に飛ばされたり、動物の毛皮にくっついたりする植物のたね、世界のチョウと甲虫、リュウグウノツカイやタカアシガニなどの海で暮らす大きな生き物が展示されています。また、魚のタイ、両生類のウシガエル、は虫類のヘビやワニ、イヌやトラなどの肉食性のけもの、シカやイノシシなどの草食性のけもの、ゴリラやオランウータンのようなサルの仲間など、様々な動物の骨格標本

などが展示されています。

(7) 第5展示室「生き物のくらし」

生き物たちは、環境の影響を受け他の生き物たちと関わり合いながら、暮らしています。生き物同士の関わり合い、生き物と環境の関わり合いの姿や仕組みを、映像や、ゲーム、人形劇などで紹介しています。人間もまた、生き物や環境に影響を与え影響を受けて暮らしており、自然とは深い関わりがあります。自然とどのように付き合うか、あなたも考えてみて下さい。

(8) 花と緑と自然の情報センター

「大阪の自然誌」展示室

さわれる展示：台場くぬぎの森の木々、
北摂山地の岩石、ブナの切り株、金剛・
生駒山地の岩石、二上山の岩石、和泉山
脈の岩石、竹の見分け方

音の出る展示：カジカガエルの鳴き声、
シカの鳴き声、「ビデオライブラリー」の
サウンド（学習コーナーの端末）

大阪の自然を、山地・丘陵・水辺・平野
に分けて紹介します。この展示室で自然に
興味を持ち、実際に野外へ出かけ、そこで
出会ったものを調べにまた博物館に来てく
ださい。学習コーナーの「ビデオライブラ

リー」端末では、野鳥やカエル、セミ・コオロギなどの昆虫の鳴き声が聞けます。土曜日、日曜日、祝日の開館時間には、学芸員がいるので、自然や展示についての質問ができます。平日の場合は、受付の係員に声を掛けていただくと、学芸員が質問にお答えします。ミュージアムショップも、ここにあります。

2 さわれる展示と音の出る展示の紹介

(1) ポーチのさわれる展示

博物館本館の玄関に向かって左側にあります。1メートルを超える大きな岩石が、いくつも並んでいます。

●玄武岩

火山から流れ出た溶岩が固まってできた火山岩です。冷えて固まるときに、体積が小さくなるので、規則的な割れ目ができます。この標本は、六角形や五角形の柱のように割れたものです。

●枕状溶岩

海底火山から流れ出た溶岩が固まったも

のです。丸っこい、まるで枕のような形をした岩の塊が集まってできています。

（２）博物館本館のさわれる展示

●サヌカイト

場所 ナウマンホール

石器時代の人たちが、石器の材料にした石です。大阪では二上山のちかくで取れます。表面はザラザラしていますが、鋭く割れ、割れ口はツルツルです。サヌカイトで作った石器で、ナウマンゾウを狩りし、料理して食べていたのかもしれません。

●大阪平野のおいたち

場所 第2展示室入り口付近

約2万年前から1500年前の大阪平野の様子の変化を、さわれる地図で紹介します。地図は、右から約2万年前・約6000年前・約2500年前・5世紀頃（1500年前）の4つです。それぞれの地図では、海と陸の分布と現在の地名が分かるようになっています。ボタンを押すと音声ガイドが流れます。

●ナガスクジラの下顎骨（下あごの骨）

場所 第2展示室入り口付近

大阪市鶴見区で約6000年前の地層から

見つかりました。この骨の持ち主のクジラは、体の長さが約 20 メートルあったと考えられています。ポーチのナガスクジラとほとんど同じ大きさでした。骨のさわり心地や、その大きさ、歯があるかないかを、確かめて下さい。

●ナウマンゾウの下あごの骨

場所 第2展示室入り口付近

この化石は、鳴門海峡で漁師さんの網に掛かって引き上げられた、約 10 万年前のもので、口の先が手前にあります。この化石の下あごには大きな歯が左右 1 つずつ生えています。ナウマンゾウは、この大きな

歯でたくさんの植物の葉っぱをすりつぶして食べていました。そのかみ合わせの部分にさわって確かめて下さい。

●二上山の岩石

場所 第2展示室の中程

現在の大阪の周りには火山はありません。約1500万年前には、大阪と奈良の境にある二上山の辺りに火山がありました。火山の噴火でできた岩石の種類や分布を調べると、噴火の仕方や溶岩が流れた順番が分かります。二上山の岩石6種類が展示されています。展示されている岩石標本には、ザラザラとした自然の表面と、平らでツルツルな

人工的に切断・研磨された面があります。

岩石の種類：明神山火山岩 春日山火山
岩 雌岳火山岩 石切場火山岩 鹿谷火山
岩

●石炭

場所 第2展示室の中程

植物が枯れたものがたまって地層になり、
長い時間を掛けて出来た岩石が石炭です。
石炭はかつて日本でも採掘され、燃料に使
われていました。石炭は、真っ黒な色をし
ています。炭素を多く含んでいるので、燃
えやすいのです。大きな石炭の塊を展示し
ています。二上山の岩石と、さわり心地を

比べてみてください。

●アンモナイト

場所 第2展示室の中程

展示されている化石は、約 8500 万年前のもので、北海道から見つかりました。アンモナイトはイカやタコに近い軟体動物で、殻を持っていました。その殻の部分だけが化石になります。この殻の形は渦巻き状で、殻の内部は壁に仕切られて幾つもの部屋に分かれていました。展示されている標本では、殻を部屋に分ける壁の部分が凹んで溝になっているので、さわってその形を確かめてみましょう。

●恐竜の足跡（模型）

場所 第2展示室の奥の階段付近

ぬかるんだ場所を恐竜が歩き回り、その後、足跡の形が残っているうちに砂や泥が覆いました。そのまま長い時間が経ち、地層が硬い岩になると、足跡は化石になります。足跡の化石は地層の境目のでこぼことして見つかります。展示してあるのは、アパトサウルスの足跡化石の模型です。アパトサウルスは、四つ足で長い首と尻尾をもつ大きな恐竜でした。あなたの足と大きさ比べをしてみましょう。

●恐竜の脚の骨

場所 第2展示室の奥の階段付近

モロッコの中生代ジュラ紀の地層から見つかった、ケティオサウルスという恐竜の脚の骨です。ケティオサウルスは、四つ脚で長い首と長い尻尾をもつ、かみなり竜の仲間でした。この脚の骨は、太ももの骨ですが、割れてしまって膝に近い部分だけが残っています。大きさや太さを、あなたの太ももと比べてみましょう。

●黒水晶

場所 2階ギャラリー 第2展示室出口と第3展示室の間

第2展示室の階段を上がって、先に進んだところにあります。

三角形の面が6つ集まったとんがり帽子のような形の水晶が、たくさん集まって大きな塊になっています。このとんがり帽子のような形は、自然に出来た水晶の特徴です。黒い色の水晶を、黒水晶と呼びます。この標本も真っ黒な色をしています。

●琵琶湖の魚

場所 第3展示室入り口付近

ニゴロブナとゲンゴロウブナの、体の表面の様子分かる模型と、骨格が分かる模型があります。

●大きな貝

場所 第3展示室の奥

世界一大きな二枚貝のオオジャコがあります。また、大きな巻き貝のホラガイ、アラフラオオニシ、トウカムリガイが並んでいます。

●クスノキの年輪

場所 2階ギャラリー 第5展示室を出たところ

高槻市に生えていたクスノキを切り倒し、幹を輪切りにしたものです。樹木は内側から外側に向かって大きくなっていきます。1年で成長した部分が輪になって残ったも

のが、年輪です。この標本にさわると、年輪があるのが分かります。年輪を数えると、その木が何歳なのか分かります。このクスノキが何歳まで生きたか、年輪を数えてみて下さい。そして、この標本からはクスノキの良い匂いがします。

(3) 花と緑と自然の情報センター「大阪の自然誌」展示室のさわれる展示・音の出る展示

●台場くぬぎの森

大阪北部の北摂山地に見られる台場くぬぎが展示されています。台場くぬぎの幹の

部分は太さ１メートル、高さは人の背丈ほどですが、そこから伸びる数本の枝は５メートルを超えます。炭の材料にするため、人が何度も伐採したせいで、でこぼことした形になりました。台場くぬぎの森には、アベマキ、コナラ、ナラガシワなども生えていて、人間に利用されてきました。それらの樹木の幹の円盤と、幹の表面にさわることができます。

●北摂山地の岩石

北摂山地を作る岩石を展示しています。地下深くでマグマがゆっくり冷え固まってできた深成岩と、古い時代の堆積岩や火山

岩です。

展示されている岩石標本には、ザラザラとした自然の表面と、平らでツルツルな人工的に切断・研磨された面があります。

角閃石閃緑岩、ザクロ石花こう岩、緑色岩（玄武岩質枕状溶岩）、チャート、砂岩

●ブナの切り株

ブナは夏の暑さや乾燥に弱いため、ブナ林は、大阪では標高 800 メートル以上の山地でのみ見られます。この切り株は、妙見山で伐採されたもので、樹齢約 200 年でした。樹齢とは、その木の年齢のことです。幹の断面を、立てて展示しています。

●金剛・生駒山地の岩石

金剛・生駒山地をつくる岩石を展示しています。いずれも、地下深いところでマグマがゆっくり冷え固まってできた深成岩です。断層の影響を受け、岩石を作る鉱物が変形（マイロナイト化）したものも含まれます。

展示されている岩石標本には、ザラザラとした自然の表面と、平らでツルツルな人工的に切断・研磨された面があります。

はんれい岩、マイロナイト化した花こう岩、片状花こう岩と貫入した花こう岩質岩、角閃石花こう岩、石英閃緑岩

●二上山の岩石

大阪と奈良の境にある二上山は、1500 万年前には火山でした。大阪周辺では珍しい火山岩が観察できます。火山岩は、火山の噴火で出てきた溶岩が、冷えて固まったものです。凝灰岩は、火山灰が固まったものです。

展示されている岩石標本には、ザラザラとした自然の表面と、平らでツルツルな人工的に切断・研磨された面があります。

鹿谷火山岩（溶結凝灰岩、二上山をつくる岩石の中で最も古い）、石切場火山岩、雌岳火山岩、春日山火山岩、明神山火山岩

●和泉山脈の岩石

大阪の南の和泉山脈を作る岩石は、堆積岩です。堆積岩は、砂粒や泥や石ころが、水の働きでたまって出来た岩石です。化石を含むことがあります。岩石を作る粒の大きさの違いを、さわって確かめて下さい。

展示されている岩石標本には、ザラザラとした自然の表面と、平らでツルツルな人工的に切断・研磨された面があります。

泥岩、砂岩（和泉青石）、礫岩

●竹の見分け方

大阪で主に竹林をつくっているのは、3種類のマダケの仲間です。タケノコ用のモ

ウソウチク、かごなどの竹細工用のマダケ、大阪北部でタケノコ用に栽培されるハチクが展示されています。それぞれ、節や枝に特徴があります。

●「大阪の自然誌」展示室の音の出る展示
カジカガエルの鳴き声 北摂山地のコーナーにあります。

シカの鳴き声 北摂山地のコーナーの、ブナの切り株の近くにあります。

「ビデオライブラリー」のサウンド
学習コーナーの動画・音声端末にあります。大阪周辺の、野鳥の鳴き声、カエルの鳴き声、セミの鳴き声、コオロギ・スズム

シなどの秋の鳴く虫の声を聞くことができます。

3 ご利用案内（開館時間、入場料、交通アクセス、バリアフリー情報）

●開館時間

3月～10月 午前9:30～午後5:00

（入場は午後4:30まで）

11月～2月 午前9:30～午後4:30

（入場は午後4:00まで）

●休館日

月曜日（休日の場合はその次の平日）

年末年始（12月28日～1月4日）

●入場料

大阪市立自然史博物館・長居植物園共通

大人 300 円

高校生・大学生 200 円

中学生以下 無料

大阪市内在住 65 歳以上の方（要証明）
無料

障がい者手帳等をお持ちの方（介助者 1
名含む、要証明） 無料

団体でのご利用の場合は、ご予約をお願いいたします。

花と緑と自然の情報センター

無料。ただし特別展は別料金です。

特別展

催し物により異なります。詳しくはお

問い合わせ下さい。

●交通アクセス

公共交通機関

大阪メトロ御堂筋線「長居」駅南改札口
3号出口から東へ約 800 メートル。徒歩で
10～15 分かかります。歩道や点字ブロック
が整備されているため、大阪メトロ御堂筋
線「長居」駅の利用をお勧めします。

長居駅からのアクセスは以下の通りです。

3号出口のエスカレーターを使って地上
に出ます。点字ブロック（線状の誘導ブロ
ック）に従って左の方向に約 100 メートル
歩きます。点字ブロックの最初の分岐（点

状の警告ブロック) を右に曲がると外周道路外側の歩道です。点字ブロックに従って道なりに進み、5つ目の点字ブロックの分岐で左に曲がり、道路を横断して、外周道路内側の歩道に渡ります(自動車は通らない道路ですが、自転車やランナーが走っていますので、ご注意ください)。渡り終えたら右に曲がり、点字ブロックをたどって、1つ目の分岐を左に曲がると、花と緑と自然の情報センターの南門を通り抜けます。点字ブロックの次の分岐を右に曲がると、花と緑と自然の情報センターの建物に入ります。そのまま前方へ約40メートル進むと、「大阪の自然誌」展示室があります。そこ

で左に曲がり約 30 メートル進むと受付です。ここでチケットを買って植物園に入り、約 30 メートル進むと、右側に自然史博物館のポーチがあります。

JR 阪和線「長居」駅 東出口から東へ約 1 キロメートル。徒歩で約 10～15 分。

近鉄南大阪線「矢田」駅 西へ約 1.8 キロメートル

大阪シティバス 4 系統、24 系統「長居東」または「長居東 2」停留所

駐車場のご案内

南駐車場（最寄）、地下駐車場、中央駐車

場（大型バス・自動二輪可）があります。

障がい者手帳等の提示による割引があります。

くわしくは長居公園地下駐車場におたずね下さい。（電話 06-4700-4580）

●館内設備・施設

コインロッカー

本館1階にあります。100 円が必要ですが、使用後に返却されます。

ミュージアムサービスセンター

本館1階入り口の受付付近にあります。
学芸員が常駐し、展示や自然についての質

問にお答えします。学校や団体での見学の
下見に対応します。

ミュージアムショップ

花と緑と自然の情報センター1階にあります。

捕虫網、標本箱、小さなガラス瓶などの、
観察や採集、標本作りに使う道具を扱って
います。自然についての本や、自然史博物
館が作った本も販売しています。自然史博
物館オリジナルTシャツもあります。その
なかでも、むしへん、とりへん、きへんの
ついた漢字が、それぞれたくさん載ってい
るTシャツが人気です。恐竜の模型など、

子ども達に喜ばれるグッズもあります。

●バリアフリー設備

目の不自由な方に

盲導犬といっしょに入館できます。

目の不自由な方のために、点字の見学ガイドと大きな墨字の見学ガイドを用意してあります。いずれも本館入口の受付でお申し出下さい。

小さなお子さんをお連れの方に

館内でベビーカーがご利用いただけます。
館内は2階への移動にエレベーターをご利用いただくほかは、段差のない建物となっ

ています。

お子さんといっしょにトイレに入れるよう、ベビーホルダーを備えたトイレを、男女とも個室に用意しています。

オムツ換え用のベビーベッドは、トイレの前の洗面所部分に設置しています。

授乳室兼用の救護室があります。スタッフにお声がけください。

お年寄り・身体に障がいをお持ちの方に

大阪メトロ長居駅や駐車場からは、階段などの段差なしで植物園、博物館・情報センターをご利用いただけます。

自然史博物館館内でご利用いただけるよ

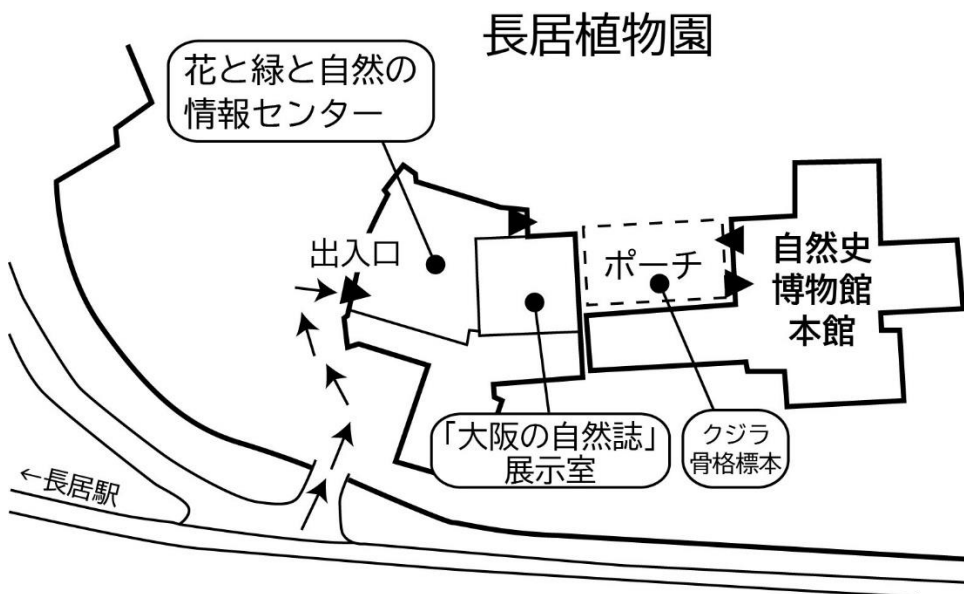
う、車椅子を常備しています。本館入り口の受付までお気軽にお申し出下さい。

2階への移動にはエレベーターをご利用下さい。

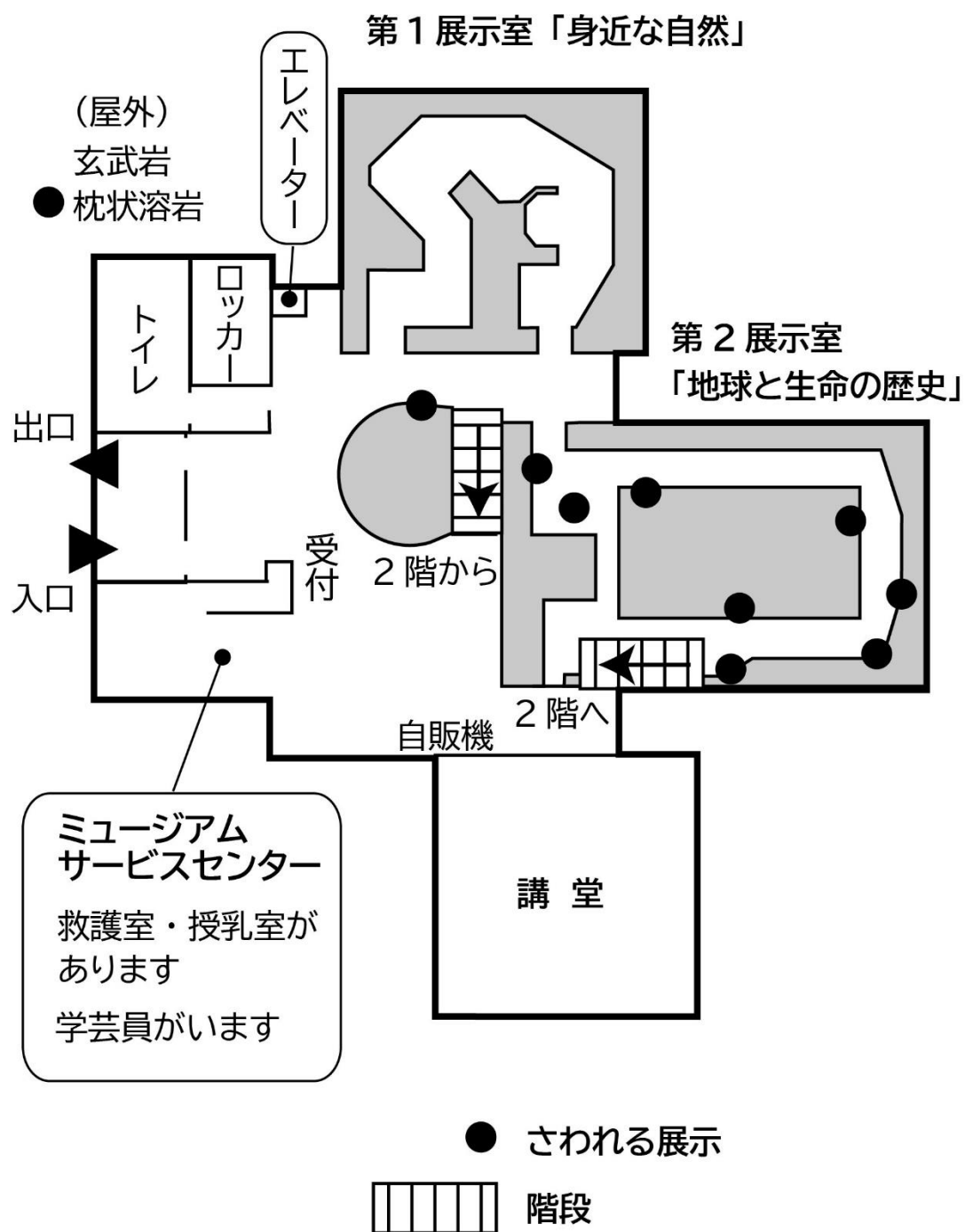
車椅子でもご利用いただける障がい者用トイレは本館1階、情報センターには1階・2階にあります（男女別室）

盲導犬・聴導犬・介助犬などの「身体障害者補助犬」といっしょに入館できます。

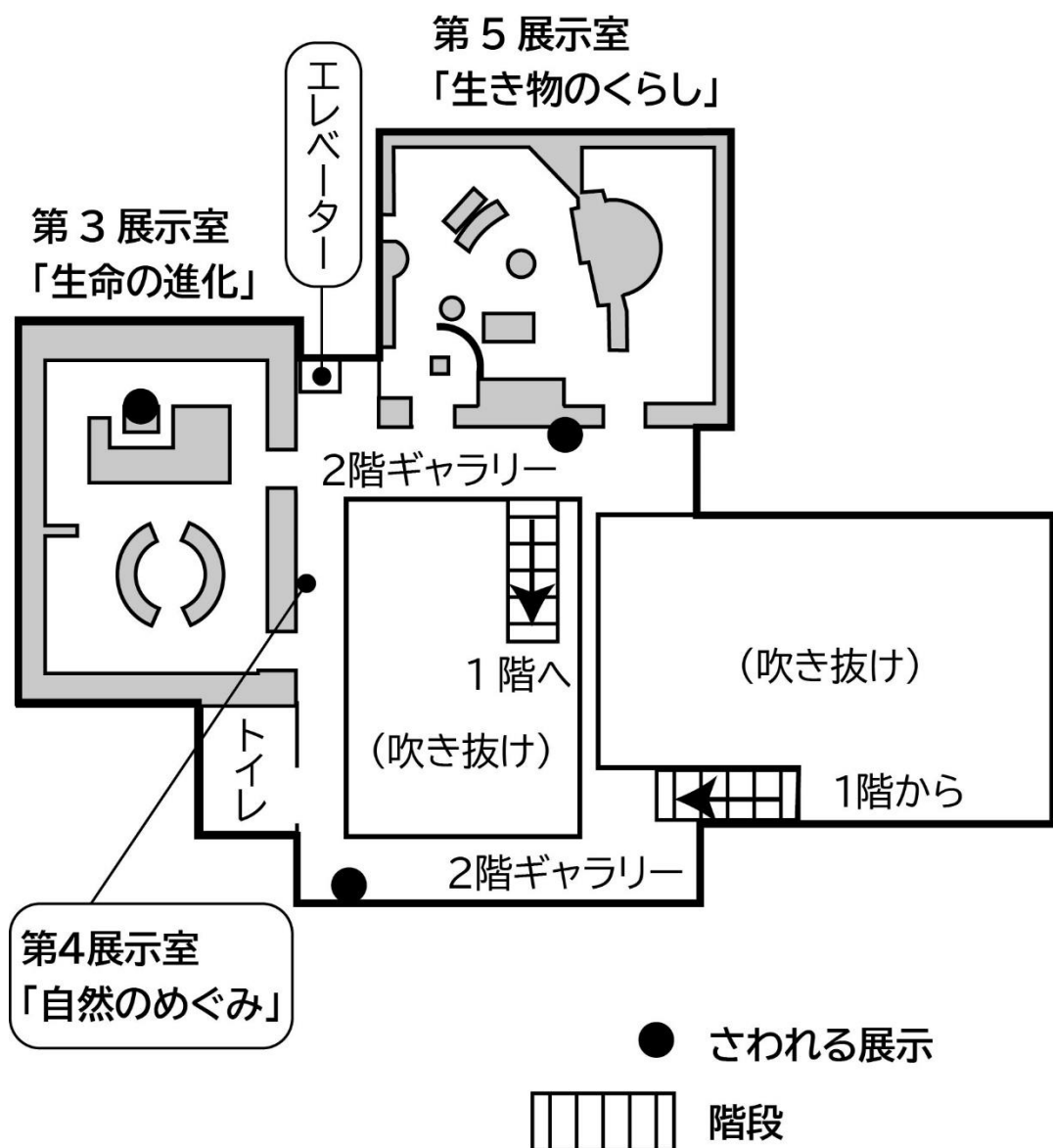
博物館の場所



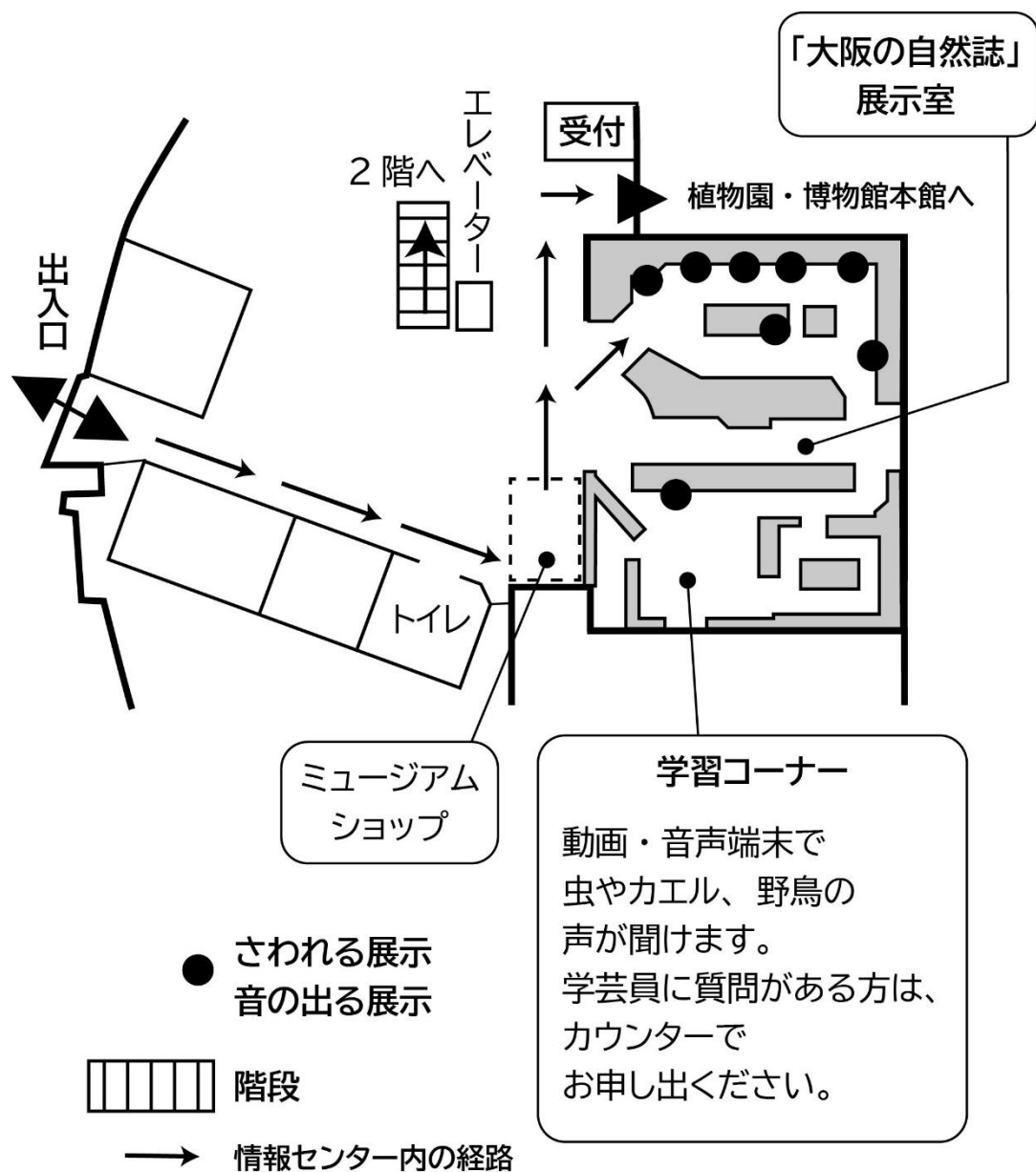
本館 1 階



本館 2 階



花と緑と自然の情報センター



2 階には、特別展を行う「ネイチャーホール」があります。

この冊子は、2020 年度笹川科学研究助成
(実践研究部門) により、試行的に作成した
ものです。ご感想、ご意見などございましたら、
本館 1 階の受付、またはミュージアムサ
ービスセンターの学芸員までお伝え下さい。

2021 年 2 月 10 日発行

大阪市立自然史博物館

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23

電話 06-6697-6221

e-mail monitor@mus-nh.city.osaka.jp

公式 Web サイト

<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/>



メール



Web サイト